



済々黌宅建多士会三十周年の思い出

S39年卒 家入 勝也

宅建多士会は今年三十周年を迎えるとのことで発会当時のことを思い出しております。

発会は母黌百周年の頃、当時親しくしていた同窓の先輩後輩で、「毎月集まって情報交換をしないか」という話になり有志数人に呼びかけたところすぐにまとまりました。

不動産業者はなかなか他支部の知らない業者とは人見知りして交流が深まらなかったようでしたが、名称を「宅建多士会」として毎月11日を定例会にして、飲みながら仕事の話をしようと持ちかけたところ数名の同窓不動産業者が集まり第1回の定例会を「曼茶羅屋」で開きました。その際、初代会長に昭和4年卒業の菊池斌氏を選出しました。

この頃の宅建多士会は、基本的には難しいことを言わず、一献かたむけて仲良しになるということが第一でありました。ある時は花岡山の料亭で満開の桜を眺めながら花見をしたり、またある時は菊池会長の自宅の屋上で月見をしたり、そして例会が終わればネオン街に繰り出していったものでした。

その後会員が増えて年齢層も、業種も幅広い会になっていきました。菊池さん、甲斐さん、岸本さん、飯塚さんなどお亡くなりになった方もいらっしゃいますが楽しく飲んで語って、一緒に仕事ができたとがなよりの成果だと思います。おかげさまで同窓生は助けたり、助けられたり大変人生にプラスになることが多かったように思います。

30周年を機に宅建多士会の会員の皆さんが親睦を深め、有意義な人生を送られることを心から念ずるところです。

菊池名誉会長の思い出

S44年卒 北川 英一

菊池先輩に初めてお目にかかったのは、30年前の昭和58年2月11日でした。場所は羅生門というところではなかったかと思います。済々黌の卒業生で不動産の会が出来たので、おまえも出てみんかと父親に勧められて顔を出したのが始まりでした。昨年末まで不動産業とは縁もない仕事をしていた自分が、親の伝で歳明けてすぐに同業の、それも同窓の方々とお付き合いをさせて戴くことになるとは思いませんでした。そのときの初代会長として、菊池先輩がいらっしゃいました。そのときの初対面の記憶がはっきりと蘇らないのですが、出席の方々、何せ強面の方々ばかりで、かなり緊張していた為だろうと思います。いま計算してみると、そのときの菊池先輩は72才、私は32才で年の差40才。明治44年生まれの前輩は親というより祖父のようでした。そのときに私よりも若手の松海、井上、油田の3氏がいて、何回か参加するうちに、以後、私は彼らにくっついて例会の準備や事務方を務めるようになりました。中央街にあります银杏不動産商会の菊池会長の事務所に集まり例会の準備をする際には、事務所には奥様がいらっしゃって、いつもにこにこ顔で私たちを迎えて戴きました。宅建多士会の会長を二期4年務められました。その間、17名で発会した会員数も4年後には49名の大所帯になりました。

初期の頃の役員としては、会長、副会長山本学先輩、清田信一先輩(故人)、事務長今池興治郎先輩があつて、若手が副事務長として今の経理も兼ねて動き廻っていました。その頃は今のようパソコンやファックスやコピー機など事務機器が十分にあったわけではなく、例会の案内は手作りの案内書をコピーして郵送、物件交換用の物件情報の調達と例会出欠確認のため手分けして会員事務所を廻ったりしておりました。菊池先輩の事務所には当初コピー機が置かれてなく、コピーは違うところでしておりました。ある時、菊池先輩の事務所にコピー機が置かれることになりました。時として我々が先輩の事務所に集まらず、別場所で案内等の作業をしたことの気遣いからだと思います。その時は申し訳ない気持ちと感謝の気持ちで一杯でした。

例会は毎月開催されておりましたが、中秋の名月の頃になると、月見会を開催しておりました。菊池先輩宅は龍田町弓削の白川沿いの白川を下に見下ろし出来る眺望の良い場所で建物には屋上があつて、ここで月見の宴を開くことになりました。夕暮れ時に会員集まり豪華なお膳を出され、おそらく方向的には神園山だろうと思いますが、出る月を観る一時でした。

平成5年の創立十周年の際に、菊池先輩から100万円もの寄附金を頂戴致しました。この寄附金は、菊池基金として一般会計とは別にして、流通の多士会レイズ構築や会の運営上どうしても必要というときに使わせて戴きました。

その数年後、痛ましいことが起きました。先輩の最愛の奥様が、自宅の庭から下に転落されお亡くなりになりました。ご自宅で葬式をあげられましたが、憔悴した顔を見るのが辛いことでした。

先輩が米寿を迎えられた創立十五周年の折りにお祝いをさせて戴きました。いつ頃からだったのでしょうか、例会のご案内を先輩宅にも出していましたが、ご家族から、案内をみるとどうしても出たがるので、案内を止めて欲しいとのお願いがありました。元気でいつまでもご出席願いたいと思っていましたが、ご健康のことを考え、以後は案内を控えさせて戴きました。その後、平成16年師走にお亡くなりになっていたことを年明けて知りました。晩年は目を不自由され、ご自宅ではラジオをよく聞かれていたとのことでした。

ご冥福をお祈りしたいと思います。合掌